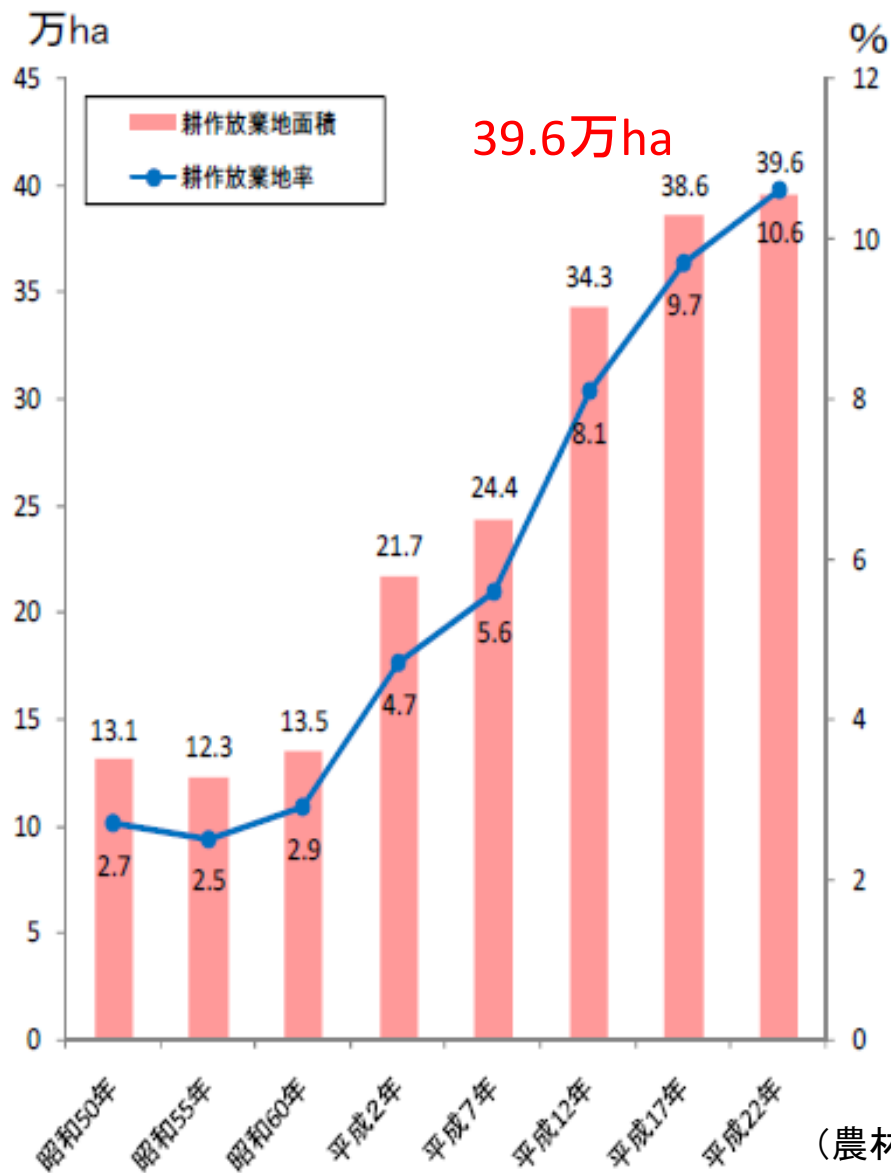


耕作放棄地の再利用方法の検討 ヒツジの放牧による生物多様性保全 および経済活動促進の両立

帯広畜産大学 保全生態学研究室

日本における放棄農地面積の推移

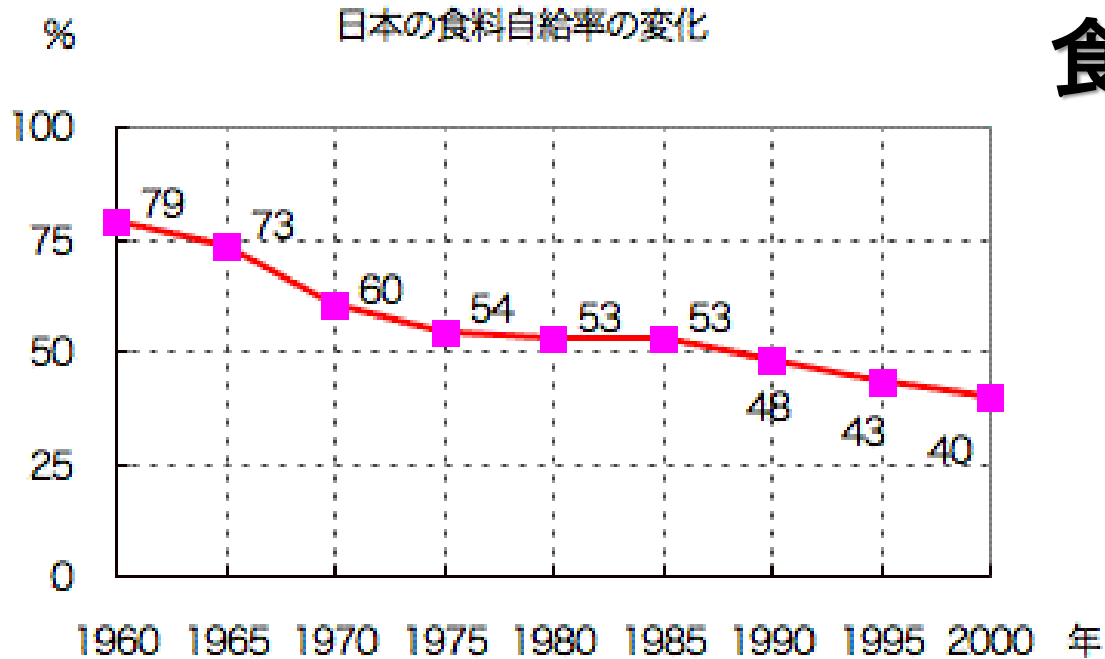


我が国の放棄農地面積：埼玉県よりも広い

北海道東部地方は特に放棄地が顕著に増加している

(農林水産省より)

食の安全保障



(農林水産省より)



地域活性

放棄地の今後



Release

放置・自然再生など



Reuse

農地に再転換可能であり、生物が生息できる環境を担保できる再利用方法とはなにか?? 放棄地の有効活用の可能性

耕作放棄地の問題点

- 放棄が続いた耕作地：草地性生物の多様性
 - … 森林に遷移
 - … 植物相の均質化 (Cramer *et al.* 2008)
 - … 動植物の種多様性**低下**

人口減少・高齢化環境下において。。。

人の介入による草地管理 を行う必要



・草丈をある程度確保したい



畜産業の有用性

草食家畜の利用

大型草食家畜



<https://pixabay.com>



<https://pixabay.com>

中型草食家畜



<https://pixabay.com>



<https://pixabay.com>

- 粗放的な飼養が可能 (高齢化・管理コスト)
- 草の摂食量が適度な家畜……



ヒツジの利用

(例えば、Dostálek & Frantík 2008)

ヒツジによる草地管理

ヒツジの利用例

- 放牧密度に応じて多様性が変化する

耕作放棄地での**飼養密度**と
生物多様性の関係は明らかになっていない

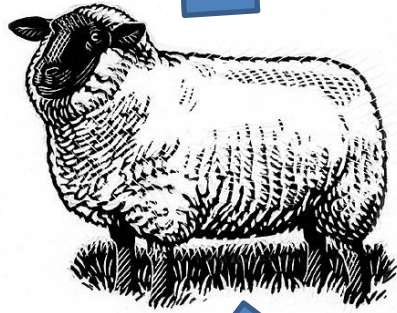
- 放棄地の飼養可能（事例あり）

自然植生がヒツジの経済性に及ぼす影響も明らかになっていない

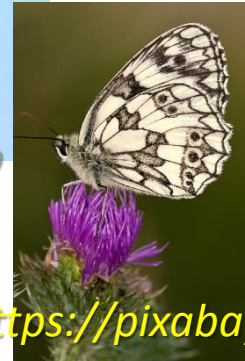


嗜好性?

草地環境の維持



<http://photozou.jp>



<https://pixabay.com>

生物多様性の維持
(植物・動物)

ヒツジの飼養を通して
経済性と生物多様性の両立

生物多様性維持を考慮した耕作放棄地の再利用法の検討



交雑種3頭



耕作放棄地で飼養したヒツジの肉は美味しい??

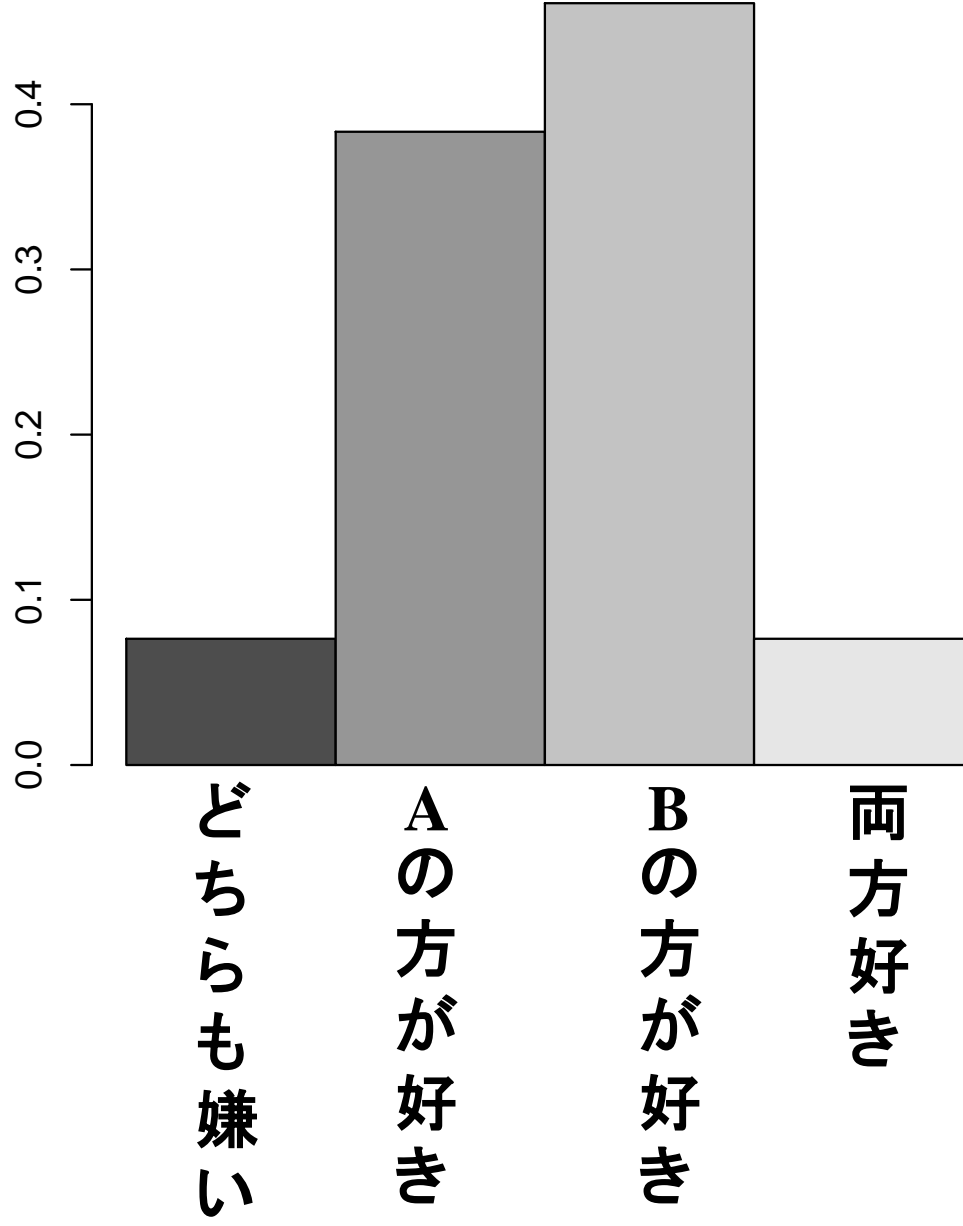
A:放牧後即精肉

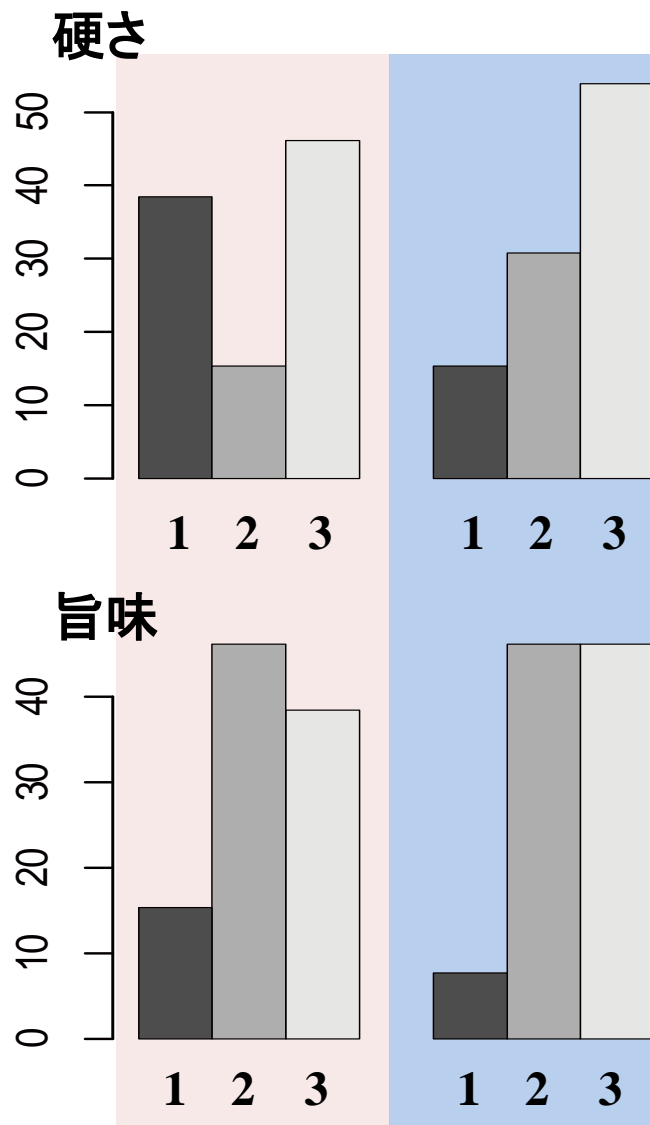
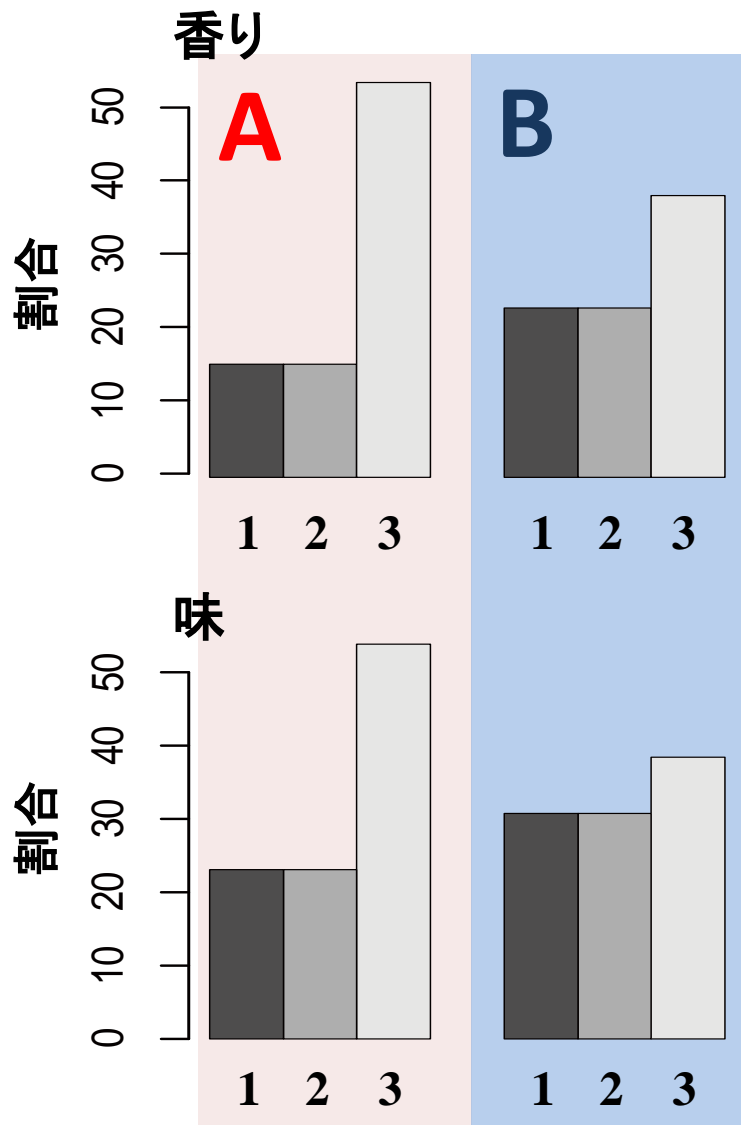
B:放牧後1か月再肥育

C:舎飼い



割合





食味の面で再肥育は不必要？

⇒ 舎飼いに羊肉も加え3月に試験実施

生物多様性への影響

明らかにすること

耕作放棄地へのヒツジの放牧の放牧密度
が草地性生物の種多様性様性に与える影響



牧区設置

0.2 ha → 10 頭/ha



0.4 ha → 5 頭/ha

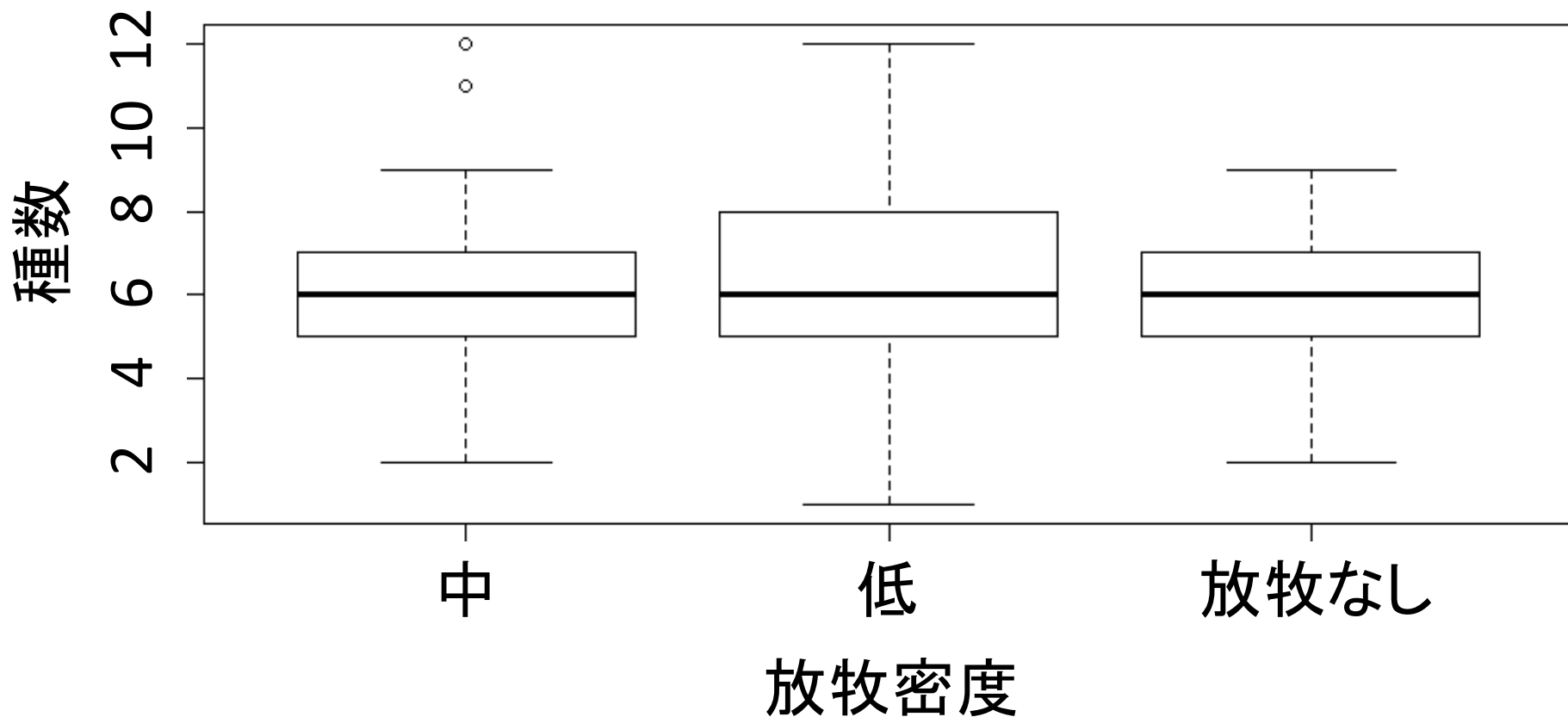


放牧なし

ヒツジ(8頭)の導入: 8月～

植物相：放牧前

平均種数



ヒツジの放牧

放牧における問題点

- 放牧約3週間後に、**浮腫**を確認
 - 入牧時期の
+ 台風

**早春(5月)にヒツジを導入することが、
自然植生のみでの飼養には必須**

今後の展開

耕作放棄地の再利用方法を通じた、
生物多様性保全、地域活性の両立を目指して

- ・ヒツジの粗放的管理(5月の導入が必須)
- ・食肉加工技術の検討
- ・飼養環境に対する生態系サービスの解明



標津町の皆さまには多大なる
ご協力を賜りました。

心より感謝申し上げます。